

## 1 研究主題

児童の問題解決の能力を高める選択学習のあり方  
～児童の興味・関心を生かして～

## 2 主題について

### (1) 学習指導要領より

現行の指導要領が施行され、4年目となった。この指導要領には、指導計画の作成などに当たって配慮する事項として、「各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。」(第1章総則の第5 2の(2)より)とされている。

この自主的・自発的な学習を促す工夫のひとつとして理科の内容の取り扱いについては選択学習が具体的に明記された。

「各教科などの指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり…」(第1章総則の第5 2の(4)より)

「A 生物とその環境」の(2)については、児童がアまたはイのいずれかを選択して調べるようにするものとする」

「B 物質とエネルギー」の(3)については、児童がアまたはイのいずれかを選択して調べるようにするものとする」(第5学年)

「C 地球と宇宙」の(1)については、「ウ、エについては児童がウ又はエのいずれかを選択して調べるようにすること」(第6学年)

### (2) 自主的・自発的な学習が可能な選択学習

理科学習のみならず全ての教科において、従来より児童の興味・関心を大切に、問題解決学習を行ってきた。しかし、自主的・自発的な学習という点においては、どちらかという教師の主体によって学習の方向性が決められ、学習が進められていくことが多く、児童が「自分の課題」として取り組むことは少なかった。

このことは、児童は「全体の課題」を解決する学習をすることになり、興味・関心も自分の持つものと多少なりズレが生じることになる。

そこで、このズレを修正するためには、児童が学習を進めるに当たって持つ課題を「全体の課題」ではなく「自分の課題」にしなければならない。つまり、児童自身が学習する対象の中から課題を見つけ、その課題を解決する検証法を考え、実際に実験・観察を行い、課題の解決を行っていくのである。

選択学習は、児童に「自分の課題」を解決する機会を与える学習であるため、自主的・自発的に興味・関心を持って問題解決学習を進めていくことができる。

(3) 2003年度の実践(研究1年目)

2003年度は第5学年の「生命のつながり(3) 生命の誕生」の単元で選択学習について取り組んだ。特に導入でのガイダンスでの時間を丁寧に扱い、児童に選択するための情報を十分に与えることにより、成果として、メダカの定期的な観察を行ったり、人体についての資料をテレビ番組に発見したり、図書資料を探すなど、積極的な学習姿勢の児童が多く見られた。

しかし、その一方で、インターネットで調べたもの、データが多く、どれを利用するのかわからない児童や、調べたりまとめたりの仕方がわからない児童など、学習の進め方がわからない児童もいる。そういった児童への支援のあり方が課題となった。また、学習に使用する図書資料やインターネットのホームページについても、ある程度子ども達が利用しやすいものを用意する必要があると考えられた。

(4) 選択学習をすすめる環境

児童が2つのうちのいずれかを選択し、課題を自分で設定し、課題解決の手段を考えて学習を進めていくということは、児童の数だけの学習があることなので、その学習に対応して指導することは大変困難なことである。

指導者にゆとりがあれば、T・T や少人数指導の体制が取れるが、実際にはそういった体制が取りづらい状況である。

また、図書資料やインターネットを利用するパソコンなどが自由に使える環境も必要であるし、複数の教室必要である。

(5) 2004年度の実践(研究2年目)

2004年度は2003年度の取り組みを受け、児童が「自分の課題」を持ち、興味・関心を持って自主的・自発的に学習を進めるために、そして指導者が一人でも選択学習を進めるためにということで研究を進めた。

仮説1(2004年度)

「個に応じるための単元構成の工夫(ジクソー学習や MD 法)を取り入れることにより、学校の規模や指導体制にとらわれずに、1人の教師でも選択学習を進めることができるのではないだろうか。また、押さえるべき基礎・基本となる事柄については単元の導入において指導するようにすれば、選択のため未習で終わるということを防げるだろう。」

仮説 2(2004年度)

「単元での導入の段階で何を学習しどのように調べていくかをきちんと押さえたり、単元を通じたワークシートを用いて見通しを持って学習したり、調べ学習の段階では児童の要求に応じてグループで調べたりするようにすれば、自主的に学習を進めることができるのではないだろうか。また、調べ学習の利用しやすいホームページや図書資料についても精選しておけば自主的に学習を進められるだろう。」

仮説 1 を検証するため、MD 法やジクソー学習を取り入れるカリキュラムを考えた。このカリキュラムはまとめの段階で、個人個人が発表する場を設定するため、一人の指導者でも選択学習を進めることができ、児童はそれぞれの課題について責任と意欲を持って学習することができた。

また、仮説 2 を検証するため、単元を見通したワークシートを利用した。課題設定の場面で、実験方法や予想をたてることを丁寧に支援することで、その後の調べ活動が自主的に取り組むことができた。

一方、ホームページや図書資料の精選は授業実践までに用意できなかったため、インターネットでの調べ学習が思ったように進められないなど、コンピュータを使う能力によって差が生じるなどの問題点も見られた。

(6) 昨年度の印旛教育研究集会・中央教育審議会の声より

4 年前の項目選択学習の導入より、多くの意見として「人の生命の誕生」「メダカの生命の誕生」は、どちらにも子どもたちに教えるべき内容を持っているので、選択するのはどうだろうといった意見が出されている。昨年度の提案の際にもそういった意見が出された。知識としてでなく、情意面からも人の誕生は全児童に指導したいといった意見もあり、5部会研究部の中でも、その扱いについては悩んだ部分である。

児童の興味・関心をいかし、自主的、自発的な学習を促し、問題解決の能力を育むのに適している選択学習は、子どもに伝えるべき内容が項目によって差が生じる、そういう問題点を抱えてしまっている。

また中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会理科専門部会においては、「小学校における項目選択…については、生徒によって指導内容が異なり、系統的な内容として相当むだが生じるから、時間を確保する観点からも廃止してはどうか。」といった声もあがっている。

### (7) 学習指導要領の一部改正

そういった中、学習指導要領の一部改正が行われ、学習指導要領に示しているすべての児童生徒に指導する内容等を確実に指導した上で、児童生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に示していない内容を加えて指導することができることを明確にした。

学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また、第2章以下に示す内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は、すべての児童に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができる。ただし、これらの場合には、第2章以下に示す各教科、道徳、特別活動及び各学年の目標や内容の趣旨を逸脱したり、児童の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。(小学校学習指導要領第1章第2の2)

内容の範囲や程度等を示す事項は、すべての児童に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができること(小学校学習指導要領第2章第4節理科第3 2の(4))

### (8) 両項目指導型活動計画

このようなことを受け、学校によっては年間計画と照らし合わせ、無理のない範囲で、項目選択を行わずに、両項目を指導することが可能になった。しかし、これまでの研究部の取り組みでは、選択学習は児童に自主的かつ意欲的な学習を促し、問題解決の能力を高めるものであるということを成果としてあげている。そこで、今年度の5部会研究部では、選択学習のよさをいかしつつ、両項目を指導する活動計画のありかたを探っていこうとした。

## 3 研究仮説

そこで本年度は以下のような仮説をたてたうえで、両項目を指導する活動実践を行うことにした。

(1) 単元での導入を充実し、見通しをもって学習できるようにしたり、学習の形態を工夫したりすれば主体的に学習を進めることができるだろう。

(2) ホームページや図書資料について精選すれば、主体的に学習を進めることができるだろう。

#### 4 具体的な手立て

上記の研究仮説に対する具体的な取り組みについて以下のように考える。

##### ① 導入の充実

これまでの選択学習と同様、学習の導入は丁寧に扱いたい。素材(メダカ・人)に十分に触れる機会を持たせることで、そこに内包する学習課題に気がつくよう支援を行う。(仮説1)

##### ② 見通しを持って

児童が見通しを持つための手段として、単元を通じたワークシートを活用する。また各自が課題を持つ場面までは、クラス全体での話し合いを行い、それぞれの児童が、その後の方向性を持って活動できることを保証する。また、まとめの場面でもクラスでの話し合いを持ち、その見通しをふり返る場を持つ。(仮説1)

##### ③ 学習の形態

主体的な学習を進める場合、その実験や観察についてもそれぞれの児童が独自に進める場面がある。しかし、児童によってはそれをどのように進めればいいのかという場面で立ち止まってしまう場合もある。一斉学習では教師の支援が入りやすいが、それぞれが同時に様々な学習を進める場合にはそれが困難である。そこで、グループや2人組で教え合い、協力しながら活動できるようにする。

(仮説1)

##### ④ 両項目を学ぶ活動計画

選択をしないで両項目を学習する場合、単に二項目を続けて学習したのでは、児童の学習意欲の低下や活動時間の増大などが予想される。そこで学習の流れとして、メダカと人の比較といったポイントを持たせることにより、二つの素材を同時に調べる問題解決のスタイルをとるようにする。(仮説1)

学期	単元名	教科書 配当時数
1 学期	1 生命のつながり(1) 植物の発芽	6
	2 生命のつながり(2) 植物の成長と肥料・日光①	2
	3 天気と情報(1) 天気の変化	9
	◎ 生命のつながり(2) 植物の成長と肥料・日光②	2
	4 生命のつながり(3) たんじょうのふしぎ	6→8
	◎ 自由研究	0
2 学期	5 生命のつながり(4) 植物の実や種子のでき方	8
	◎ 天気と情報(2) 台風と天気の変化	4
	6 流れる水のはたらき	12
	7 てことつり合い	12
3	8 もののとけ方	12

	9 ふりこの動きとおもりのしょうとつ	6
	◎ 6年の学習のじゅんぴ	0
	年間合計	79→81

(参考資料 年間計画)

※生命のつながり(3)『たんじょうのふしぎの』配当時間を2時間増やしても年間計画では95時間を超過しない、余裕を持って指導にあたることが可能。

#### ⑤評価規準

児童が個々に学習をするため、児童の問題解決の力について、具体的な評価規準を持ち、学習後児童のワークシートを中心として評価を行い、次時の学習へのアドバイスを行うことにより、見通しを持った学習の支援を行う。(仮説1)

#### ⑥ ホームページの精選

ホームページを検索して資料を見つけようとしても、情報が多すぎるため、児童はどれを利用してよいのか混乱する。また、両項目を調べるには、時間も多くなる。そこでいくつかの学習に有効なホームページについて調べ一覧表に載せておく。児童がその一覧表より選択できるようにしておく。(仮説2)

### 5 めざす児童の姿

研究部で考える、めざす児童について以下のようにとらえる。

- ・ 「自分の課題」を持つことができる。
- ・ 「自分の課題」を解決するための手段(実験・観察)を考えることができる。
- ・ 「自分の課題」を解決するために、自分で考えた手段(実験・観察)を実践することができる。
- ・ 「自分の課題」を解決して得た知識を表現することができる。

これまでののべてきたような具体的な取り組みを取り入れることにより、5部会研究部のめざす主体的な学習を進める子どもの姿に近づけると考える。

## 6 実践例

5年理科『生命のつながり(3) たんじょうのふしぎ』 両項目学習型活動計画

### (1) 単元全体を通じた具体的な手立てとの関連

これまでメダカと人を選択して学習していた単元を両項目調べる活動計画として考えた。その際、児童の思考の流れを自然にするため、学習の大きなテーマとして、メダカと人の発生の共通点・差異点を調べることにした。

また、課題を持つ上では、既習のインゲンマメの発芽と成長をもとにして考えられるようにした。インゲンマメで得られた発芽の条件をもとに、魚や人はどうなっているのかといった課題がわくようにした。

これらのことについてはワークシートを利用して、見通しを持ちながら学習を進められるようにした。

### (2)活動計画

単元の目標・小単元・時数	おもな学習活動	評価
<p><b>1 課題を見つける</b> ○導入～各自の課題を決めるための活動 ＜2＞ メダカについての導入</p>	<p>①メダカを観察する。 解剖顕微鏡の使い方を知る。卵のついた水草を切り取ってペトリ皿に入れ、卵の色・形・大きさなどを調べる。また解剖顕微鏡を使って卵の様子を調べる。 卵は受精後・3日目・7日目と用意する。 予想される課題 メダカの卵の成長の過程 成長に必要な環境・もの (適当な温度 水草 日光)</p>	<p>関 人やメダカの誕生についての情報から、意欲的に課題を選択しようとしていたか。 技 解剖顕微鏡を使ってメダカの卵を観察し、記録することができたか。 関 メダカの卵の内部の変化に興味を持ち、進んで観察したり記録したりしようとしていたか。</p>

<p>○導入～各自の課題を決めるための活動</p> <p>人についての導入</p>	<p>②人は、お母さんのおなかの中でどのように成長していくのか話し合う。</p> <p>子宮の中の子どもの様子を考えて、図に書く。</p> <p>予想される課題</p> <p>人の成長の過程（器官の発達）</p> <p>成長に必要な環境・もの（胎内の様子・温度・栄養分は？）</p>	<p>関 母体内での新しい生命の誕生について進んで調べようとしていたか。</p>
<p>メダカの誕生の様子や人の誕生の様子を調べよう。そして共通点・違いをまとめよう。</p>		
<p>2 選択した課題を追究する。</p> <p>○計画を立てる&lt;1&gt;</p>	<p>③メダカと人の誕生について調べたい課題をまとめ計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受精について</li> <li>・卵の成長過程</li> <li>・成長するための環境</li> </ul>	<p>関 メダカの成長や飼い方を調べる計画を、進んで立てようとしていたか。</p> <p>関 母体内での新しい生命の誕生について進んで調べる計画を立てようとしていたか。</p>
<p>○メダカと人について調べる &lt;4&gt;</p>	<p>④⑤メダカと人について調べたいことや疑問に思ったことを調べる。</p> <p>手段 図書資料 インターネット</p> <p>&lt;メダカ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メダカのすむ環境</li> <li>・オス・メスの区別</li> <li>・卵の成長について</li> <li>・卵の養分</li> </ul> <p>&lt;人&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児の成長について</li> <li>・胎盤・羊水・へその緒の働</li> </ul>	<p>知 メダカのオスとメスを体形などから区別できたか。</p> <p>関 メダカの卵の内部の変化に興味を持ち、進んで調べようとしていたか。</p> <p>思 卵の変化の観察結果から、発生に必要な養分は卵の中に準備されていると考えることができたか。</p> <p>知 メダカの卵は、日がたつにつれて中の様子に変化</p>



	きについて ・胎児の養分について	して、かえることを理解したか。 技 教科書、インターネット情報、図鑑、参考書、ビデオなどを確認して人の誕生や成長について調べようとしていたか。 知 人は母体内で成長して生まれることを理解したか。 思 人の生命誕生のしくみを調べ、生命の連続性について考えることができたか。
<b>3 まとめを行う</b> ○まとめよう <1>	⑥調べたことを、まとめる。	技 メダカや人について調べたことを、共通点や差異点に目を向けながら図や文で記録したりまとめたりすることができたか。

### (3) 活動の様子



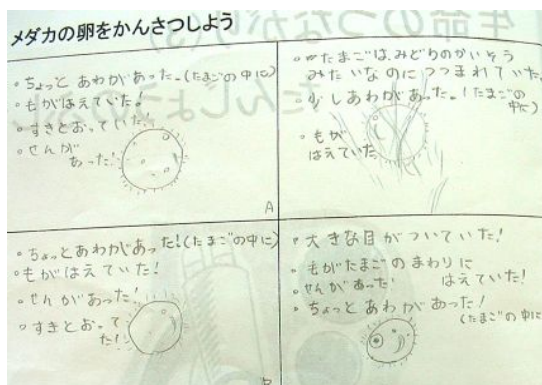
#### →<メダカを調べる子どもたち>

生まれたての油滴の見える卵，目がはっきりしてきた卵，心臓の動きが見える卵と成長の変化のあるものを用意した。

子どもたちは場を移動し観察する。さまざまな卵を観察し，驚きの声があがる。

#### →<観察した卵>

水草についているメダカの卵を観察する。体の器官が，それぞれの卵によってできていたり，まだできていなかったりすることに気づく。



### ↓<ワークシートに記入>

観察した卵をワークシートに記入する。

観察したことから、児童は卵の器官の成長の変化・成長するまでの養分などに目を向けていく。

### ↓<メダカに関する疑問点>

観察したところから出てきた疑問を記入する。

メダカの卵の成長に目が向くよう支援を行う。

導入ではメダカの卵の観察からおこなった。油滴ができている卵、体ができ始める卵、心臓の動いている卵を観察した子どもたちは卵の成長に目を向けていく。何日の目の卵であるかは知らせていないため、「メダカは何日で卵から孵化するのか?」といった疑問を持つ。観察後の話し合いでは、心臓や体について見えたことの発表から、「それぞれの器官は何日ぐらいでできるのか?」、「卵の中で成長するための養分は?」といった疑問もでてきた。

### ↓<出産直前の予想図>

出産直前の胎児については予想図を記入することを導入とした。その後、出産直前についての胎児について話し合う。へその緒や頭が下になるといった既存の知識が発表される。「へその緒は何のためにあるのか?」「どうして頭が下なのか?」「赤ちゃんの周りには?」といった疑問につながる。「髪の毛が生えている。」といった発言から、ほかの器官はいつごろできるのかといった成長への疑問へつながっていくことができた。

### ↓<胎児の成長への疑問>

1・2時間目を基にして3時間目は学習計画を立てる時間となる。インゲンマメで学習した観点を参考にして、生命誕生までの過程やその環境に目を向けて、知っていることを話し合う。

ある程度の知識を持つ児童もいる。それについてさらにしらべようということで、学習課題を持たせた。

### ↑<インゲンマメとの比較>

比較表にまとめて知識の整理を行うことで、知っていること知らないことが見えてくる。はっきりしないことを課題として持つことにいたる。

### <児童の考えた学習課題>→

学習計画を立てた。ここでの活動がこの後の活動の方向付けとなるので、ここでの支援は丁寧におこなう。児童はインゲンマメの学習をもとにして、発生の条件や過程やその養分といったものを調べようとする意欲を持っていった。

学習課題が思いつかない児童には話し合いをふり返らせ、卵の成長に目を向けるようにして

課題を持てるようにした。

第4～7時の4時間は自分の課題について調べる活動となる。

インターネットを利用しての調べ学習では、それをプリントアウトしただけで学習をした気になりがちなので、調べたものはワークシートに記録をとることにした。

←<パソコン学習を進める子どもたち。>

各自のテーマに従い学習を進める。

←<ホームページ集>

あらかじめ子どもにわかりやすいか調べておいたホームページの一覧を用意した。何を調べることができるのか案内文を添えておいたのでやみくもに探すのではなく、目的にしたがって調べることができた。

児童は検索エンジンから調べるよりも早く、目的のホームページにアクセスすることができた。

児童の中には広く調べたい者もいるので、科学リンク集のホームページもリストに載せておいた。このことでインターネットがクローズした世界になることを防ぐことができた。

<それぞれの課題を調べる様子>→

ペアをつくりお互いに協力しながら調べる。ひとりでは、調べることができない児童もパートナーの協力により、目的をはたすことができた。

←<モニターで見る児童の様子>

児童の調べている様子は、モニターを通して把握する。めあてのホームページが見つからずにいる児童には支援を与える。

←<人について調べた>

モニターで調べたものはワークシートに記入する。

授業後、どのようなものを調べることができたのかを評価する。テーマに従い調べが進んでいない場合にはアドバイスを与える。

無記入でも、モニターを通して、きちんと情報を得ている児童もいる。そういう子への評価のあり方を考える必要がある。

児童の評価は以下の規準に従った。

参考資料 生命のつながり(3) たんじょうのふしぎ 問題解決能力評価規準

学習活動	Rank	評価規準
1 課題を見つける ○メダカの卵を観察する。 A(関・意)	◎	それぞれの卵の違いに気がつき、メダカが誕生するまでの過程を調べたいと思う。 メダカが誕生するまでの環境はどのような状況が望ましいのか調べたいと思う。
	○	それぞれの卵の違いに気がつく。
	△	メダカの卵を観察したにとどまる。
○出産直前の胎児を予想する。 B(関・意)	◎	初めは受精卵で器官がなかったものが次第に出来上がり、人の形になることに疑問を持ちその過程を調べたいと思う。 既存の知識(へその緒など)をもとに、人が誕生するまでの環境がどのような状況なのか調べたいと思う。
	○	出産直前には器官が出来上がっていることに気がつく。
	△	胎児を予想するだけにとどまる。
2 選択した課題を追求する ○計画を立てる C(実・観)	◎	具体的な課題を持ち、それに合わせた適切な調べる手段を考えることができる。 (例)メダカに目・心臓・骨ができるのは何日ぐらいだろう。→毎朝定刻に解剖顕微鏡で観察を行う。
	○	大まかな課題を持ち、それに合わせた調べる手段をもつことができる。 (例)メダカの卵はどのように変化をして誕生するのだろう→観察する。
	△	あいまいな課題を持つにとどまる。 (例)メダカの卵を調べたい。
○計画にしたがい調べる ・インターネットの活用 D(実・観)	◎	自分の力で自分の課題に応じたホームページを見つけ、その解答を導き出せる。
	○	支援者やリトルティーチャーの協力により課題に応じたホームページを見つけ、課題を導き出せる。
	△	ホームページさがしにとどまる。

・図書資料の活用 E(実・観)	◎	自分の力で自分の課題に応じた図書資料を見つけ、その解答を導き出せる。
	○	支援者やリトルティーチャーの用意した図書資料より、その解答を導き出せる。
	△	図書資料を読むにとどまる。
・メダカの卵の観察 F(実・観)	◎	毎日、着眼点を持って卵の観察を行い、記録をとり日々の変化に気づくことができる。
	○	卵の観察を行い、記録をとることができる。
	△	卵の観察にとどまる。
・人の誕生に関する聞き取り調査 G(実・観)	◎	適切な人材を選び出し質問し、解答を導き出せる。
	○	支援者やリトルティーチャーの協力で質問を行い、解答を導き出せる。
	△	人材探しにとどまる。
・調べ方の修正 H(実・観)	◎	調べ方がうまくいかなかった原因を考え、再度調べ活動を行うことができる。
	○	支援者やリトルティーチャーのアドバイスによりうまくいかない原因を考え、再度調べる。
	△	原因に気づくことなく再度調べる。
3 まとめる I(思考)	◎	自分で調べた内容を一覽にまとめ、メダカと人の共通点や差異点に気づくことができる。
	○	自分で調べた内容を一覽にまとめることができる
	△	友だちのデータを利用して一覽にまとめるにとどまる。

最終の8時間目には、お互いに調べたことを話し合い、知識の共有化を図った。どうしても個人活動では調べ学習の時間に差が生じる。4時間で、調べ終えることが困難な子もいる。そのためお互いに知識の共有化を図ることは必要である。

自分で調べたことなので、多くの児童が積極的に発表することができた。全体としては意欲的に、この単元を学習することができた。時数も、各項目を選んだ場合6時間であるところを両項目を選んでも8時間で学習を終えることができた。その後のペーパーテストで評価をおこなったが、言葉に対する知識が危ういところもあるが、人とメダカの生命の誕生の過程をきちんと捉えていることができていた。何よりも知識だけでなく、調べる手段を身につけ、問題解決の力を向上することができたようである。

## 7 成果と課題

## 学習後の児童の反応

(学習課題をきめることについて)

○課題は知りたかったことを書いたから難しくなかった。

○頭の中にでてきた疑問を書いたのですぐに終わった。

△難しかったけれど4つくらいは課題が見つかった。

●何を調べようかと頭の中がごちゃごちゃした。

※児童の反応を見ると、はじめの課題設定ができた児童はその後の活動も、順調に進んでいっている。逆に課題がひとりで決められなかった子は、その後の調べ活動でも多くの支援を必要とした。自分で課題を設定できるよう支援することが大変重要である。

(インターネットで自分の課題を調べることについて)

○いつもインターネットで探すときは時間がかかるけれど最初にいくつか用意してあったので探しやすかった。

○特に難しくなかった、ほとんどホームページで探せた。

○パソコンで調べたので簡単だった。

●調べるものがなかなか見つからなくて困った。

※ホームページ集を用意したことで、簡単に目的のことを調べられている。このことについても、課題がはっきりしていればその解答をすばやく見つけられることができた。それがあいまいな児童は、同じホームページを見ている解答に気づかずにいる。

(自分で学習課題を考えて調べることについて)

○自分が疑問に思っていることを調べられるなんていいと思いました。

○人からきくよりも頭に入るような気がする。

○たいへんだけどなぞが解けてよかった。

○気持ちがよかった。

○みんなと一緒にではないところがよかった。

○自分で調べた過大なので、調べようと思う気持ちが強く、調べたことがよくわかった。

○調べて発見することが楽しかった。

○きまっていることをみんなで調べるよりも個人個人で調べたほうが楽しい。

●探しにくくて不安だった。

※課題解決学習については、自分の課題を解決できた児童はその充実感を得ている。自分の考えに従い、調べていくことに面白さを見出す児童も多い。全員で知識の共有を図ったために、学習したことを理解できたと考える児童が多かった。

(指導者から見た成果と課題)

- 導入で素材(メダカ・人)に十分に触れたり、話し合いをしたりする機会を持つことは、そこに内包する学習課題に気がつくことを促す。そして見通しを持った活動につながる事ができた。
- 何を課題ととられてよいかわからない児童には指導者より課題を与えることになった。
- 児童は単元を通じたワークシートを活用することで、学習の進め方に見通しを持つ事ができた。
- 各自が課題を持つ場面までは、クラス全体での話し合いを行うため、それぞれの児童が、それなりに、その後の方向性を持って活動できる事ができた。
- まとめの場面クラスでの話し合いを持ち、その見通しをふり返る場を持ったため、知識の共有をすることができた。
- 2人組での教え合い、協力しながら活動によって、児童によってはそれをどのように進めればいいのか悩んだ場合でも、友だちの支援により進める事ができた。
- メダカと人の比較といったポイントを持たせることにより、2つの素材を同時に調べ、学習をすすめる事ができた。2つの項目を縦に学習する場合に比べて児童の学習意欲の低下や活動時間の増大を防ぐ事ができた。
- 2つの項目を同時に調べることは、児童によっては負担が増加した。
- 児童の問題解決の力について、具体的な評価規準を持ち、学習後児童のワークシートを中心として評価を行い、次時の学習へのアドバイスを行うことにより、見通しを持った学習の支援を行う事ができた。
- ワークシートには表れない児童の学習については評価できない。
- いくつかの学習に有効なホームページについて調べ一覧表に載せておいたことは検索を素早く行わせ、資料を見つける事ができた。